を有するとともに，消化管・肝臓・胆道・膵臓領域の幅広い知識と技術を有する必要がある．消化器内視鏡専門医レベルの医師は積極的に内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）やERCP，EUSなどの難易度の高い治療手技を経験し，技術の向上に努める．安全な内視鏡診療を心掛け，1例1例の診療を大切に研修・修得することが重要であり，感染症や偶発症対策に関しても日常診療の中で指導している．また，日々の内視鏡診療の中から得られた知見を学会発表や論文化することも指導している．初期臨床研修医は，上部消化管内視鏡検査の操作方法に関する座学を年1回受講し，各疾患における内視鏡検査の意義や適応，治療方針などを実臨床を通じて研修する．

現状の問題点と今後

2023年度は消化器内科常勤医11名と非常勤医，看護師の協力により通常の消化器内視鏡診療を行っている．近年，胆膵内視鏡・経皮関連手技件数が年間約1,000件に増加しており，早期がんに対するESDの件数も年々増加傾向にある．働き方改革による医師の長時間労働の短縮が推進されることとなり，時間外労働の制限が努力目標とされている．緊急対応や長時間の内視鏡診療を行うことが多い当科では医師のみならず看護師を含むすべてのスタッフの時間調整をする必要があり，安全かつ効率的な内視鏡診療を行うためにはどうするべきか，各スタッフの意見を伺い，解決策を日々模索しているのが現状である．今後も消化器内視鏡診療を通じて，大学附属病院の役割である診療・教育・研究の向上と地域医療に貢献できるようスタッフ一同精進する所存である．専攻医を含む若手医師のスタッフを随時募集しているため，ご興味のある方はお気軽にご連絡をいただきたい．

論文受理　2023年7月3日